

今、堆肥センターでは、流通が大きな問題となっています。畜産側：処理をしても売れない。耕種側：安くて、いいものであればいくらでも欲しい。議論はつきません。このコーナーでは、それぞれの言い分を全国各地から聞いてみます。

まず、トップは神奈川県三浦半島の畑作専業地帯、利用サイドの話をお聞きしました。



話し手：神奈川県横須賀市長井久保木正平さん

一 経営の内容をお聞かせ下さい。

畑作専業で、面積は150a、夏にかぼちゃ、トマト、スイカ、冬にキャベツ、大根を作付けしています。労力は本人、妻、息子の3人です。

一 一年間の堆肥量と10a当たり施用量はどのくらいですか。

年間に素堆肥や有機材を15～20t購入します。畜ふん堆肥は、地元の葉山牛(黒毛和種肥育主体)飼育農家から(13,500円/4m³)、有機材は、コーヒー粕等(1,000円/4t)を横浜市内から入れます。10a当たりの施用量は作物によって調整していますが平均すると約1tです。施用量は野菜の価格に比例します。今年のように野菜が安いとおそらく堆肥の購入も少なく、施用も減ると思います。

一 堆肥の調整法はどのようにしていますか。

基本的に畜ふん堆肥は、畜産側で3カ月間発酵させたものを自分の堆肥場に入れます。オガクズ使用量が多く、過乾燥状態なため、加水か水分の多いコーヒー粕で調整、2次発酵をさせます。堆積期間は、時期によって変わりますが、春購入は大体秋には散布します。その間2～3回の切り替えを行います。

発酵促進させるために、水分調整材、タイ肥の素1号(植物油粕、硫酸アンモニア、骨粉、指定配合肥料、硫酸加里、化成肥料等配合)を入れます。組合員の中には微生物を活性化させるため糖蜜や米糠等を混ぜる人もいます。

一 堆肥の堆積場はどのようなお考えで作りましたか。

野菜への有機質投入の必要性を感じたからです。共同では自由がきかないため、個々に堆肥場を作りました。現在のものは平成6年度の「農業環境総合整備事業」で、220万円(補助率66%、48m²、床壁コンクリート、鉄骨、スレート)かかり、同時にローダも入れました。

一 畜産側への要望はありますか。

敷料のオガクズは腐蝕し難いので、ワラ等腐り易いものを使って、更に価格を安くして欲しいですね。今、不足分を神奈川県中部から着値1万円/tで調達している人、フェリーを使い元値が安い千葉県から6万円/10tでいれている人もいます。片荷では運賃が高つくのが欠点です。

一 行政側への要望

生産物の価格が安ければ、苦勞してまでも堆肥投入はしたくありません。有機栽培品は差別化商品扱いにしてもらいたいものです。また、現在、畜産側と耕種側は個人情報での流通が主体です。個々の都合でいつ途絶えるかわかりません。公的な機関で流通関連情報の提供をしてほしい

ですね。



畑のあちこちに見られる堆肥舎